

# 1月26日ウクライナ情報

安齋育郎

## ①ハリコフ市民の証言(2024年1月24日)

ハリコフの(ロシア軍による)攻撃についてだけど、見ろよ、これで紛争に栄養補給してるんだよ。ウクライナのメディアや偏向しているマスコミは「ロシアは軍事施設や軍人だけを攻撃していると言っているが、ハリコフのホテルには市民しかいなかった」と報じている。

だけど、こんなの嘘だ。わざと嘘を流している。だって私はハリコフのそのホテルと、別のホテルにいた。名前は忘れたけど確かスポーツ宮殿ツーリストだったかな。

そこは軍人がうじゃうじゃしてたよ。あれは間違いなく軍人だ。どう言ったらいいか、私は胸に手を当てて言うけど山ほどクズがいた。

防空システムがあったのかどうか知らんけど、ハリコフのホテルにいた軍人たちはクズだ。クズばかりだ。

わかったかい？

だからと言って、ロシアがいいとは言わないよ。私はそんなことは一つも言ってない。ただ私は事実だけ言ってるんだ。嘘について言っているんだよ。ただ嘘についてだけだ。

なんで嘘をつくんだ？

ロシアは「軍人を攻撃している」と言っている。その通り、ロシアは軍人を攻撃している。

それっていいこと？

いや、良くないよ。私はどんな攻撃も支持しない。私は戦争に反対だ。ロシアを支持しない。だけど、なんで嘘をつくんだ？

なんで騙さなきゃいけないの？

嘘か？どちらの陣営も嘘をつく。私たちはあっちにもこっちにも立ち向かわないといけない。私たちはあっちからもこっちからも攻撃されているんだ。わかる？

メディアは過剰に信じちゃだめだ。偏向メディアやマスコミは嘘みれの電波芸者だからな！やつらの仕事は紛争に油を注ぐことだ。

イエス・キリストが言ったように「隣人を愛せ」。

じゃあな！

▽ 1月2日「多くの市民が犠牲になった」と報じられたロシア軍のハリコフのホテル攻撃

▽ ハリコフのブロガーが「ホテルは軍人でいっぱいだった」と証言

▽ 嘘が許せず、証言したブロガーはウク🇺🇦に逮捕された↓



[https://twitter.com/Kumi\\_japonesa/status/1749969445362221322](https://twitter.com/Kumi_japonesa/status/1749969445362221322)

## ②NATO はポーランドに軍隊を移動させている(2024年1月17日)

ロシアを攻撃する準備？

SNS は、ポーランド経由でベラルーシ国境への軍事装備の移送の情報を広めている。スポーツニク・ベラルーシが公開したビデオには、米国製ストライカー装甲兵員輸送車の列車全体が映っている。

<https://twitter.com/i/status/1747183407606706594>



[https://twitter.com/kinakomochi\\_215/status/1747183407606706594?s=09](https://twitter.com/kinakomochi_215/status/1747183407606706594?s=09)

## ③【ゴンサロ・リラに起きたこと】(2024年1月17日、一部再報)

—ジャーナリスト、チリ系米国人のゴンサロ・リラ氏がウクライナの刑務所で死亡しました。55 歳でした。

米国のジャーナリストたちは、「息子は死ぬまで拷問された」と考えヴォロディミル・ゼレンスキーを非難する彼の父親の言葉を引用しています。

「息子を死に至らしめたやり方は許しがたい。8 ヶ月と 11 日間、拷問され、恫喝され、外部との連絡を絶たれた。米国大使は息子の救出のために何もしなかった。この惨劇の責任は、老いぼれ米国大統領ジョー・バイデンと共謀している独裁者ゼレンスキーだ」

—ゴンサロの父

—米国のエスタブリッシュを皮肉るゴンサロ・リラの YouTube チャンネルは 83,000 人以上のフォロワーがいます。

昨年 5 月、彼は、キエフがロシアとの和平協議に後ろ向きであることを批判した後、ウク指導部とウク軍の信用を傷つけたとして、ウクライナの都市ハリコフで拘束されました。

ジャーナリスト、アレックス・ルーベンスタイン氏は、彼が死に至る重い病気であることを無視されているとする彼の手紙を公開しました。

「私は両方の肺に肺炎を抱えている。浮腫が重症化し、気胸のようなものだ。この症状は 10 月半ばからだ。刑務所側は無視している」

—ゴンサロ・リラ

—ここからはモスクワのフリージャーナリストのマイク・ジョーンズさんと生放送でお伝えします。

マイクさん、ウクライナの監視下でのゴンサロ・リラ氏の突然の死について最初の印象は？

マイク: 悲しいことだが、これは米国政府の大きな失敗だ。ブリンケンはゴンサロの件を知らされて

いた。

イーロン・マスクはウクライナ政府への疑念についてネット上で触れていた。裁判の日程は決められていたが12月半ばに私が伝えた通り、実際には実行されなかった。

彼は拘束される前、ツイッターを通して私に個人的に連絡してきて、ウクライナから出国するために私に援助を求めていた。

もちろん、大したことはできなかったが、できるだけことはした。彼は、以前に拘束されたときに受けた拷問について私に語っていた。それは、私のような米国やイギリスの市民にとって、フリージャーナリストに対する酷い警告だった。

ジュリアン・アサンジを思い起こす。実際に米国は、彼の父親が言うところの独裁者ゼレンスキーの刑務所でリラ氏が衰弱していくのを黙認したと言えるだろう。ゴンサロ・リラ氏自身もゼレンスキー体制に非常に批判的だった。事実、援助せずに衰弱させるのを黙認しただけでない。

彼はイギリスからも制裁を受けている。西側の「言論の自由」や「民主主義」は空文句でしかない。ただの妄想だ。守られていない。政府の絵空事や政権に反対する者は助けない。

—マイクさん、ゴンサロ・リラ氏がカギとなるテーマに関して別の視点を持っていたことは知られていたのでしょうか？

彼が公開した最後のビデオの一部を見てみましょう。

<https://twitter.com/i/status/1747457544023658824>

「この紛争が起きて2ヶ月余りの2022年4月、解決できたかもしれない。しかし、ワシントンの主戦論者たちがゼレンスキーに、いかなる和平案であれロシアと締結すれば支援をやめてお前に送る金を止めると言った」

「ジョー・バイデンが2024年の選挙に出ると発表したけど、その時、彼は82歳、任期が終わるときは86歳。終わりが見えているだろう」

「米国はイランとサウジアラビアの接近に神経質になっている」

「味方が急にいなくなった。中東の”お仲間”がみんな去った」

—それで、マイクさん、こういう視点が、彼の運命を決定づけたと思いますか？別のストーリーを支持していれば、結末は違ったと思いますか？

マイク: そう思う。ゴンサロ氏は独特な人物だった。ウクライナに関して反エスタブで反「絵空事」だっただけでなく、ユーチューバーの間でも独特だった。

ゴンサロ氏は人々の反応や反論を楽しんでいたと思う。例えばスコット・リッター氏のような人でさえ、彼を煩わしく感じており、なぜ、ゴンサロ氏は最初に拘束されたとき、釈放されたのか？と、ゴンサロ氏とSBUとの関係に疑念を抱いていた。

トランスセクシュアルのウク軍英語圏担当報道官サラ・アシュトン・シリーズを忘れないでくれ。「彼」はクラーク大隊がゴンサロ氏を殺害したとの噂に大喜びしていた。予告され、付け狙われていたゴンサロ氏にとっては不思議なことではなかった。

<https://twitter.com/i/status/1747457834927939990>

それまで実際に拷問を受けていた。それでも彼は自由を獲得しようと、出来る限りのことをし、ロシアであれ西側であれ、全てのメディアに嘆願した。実際、米国で働いている彼の家族、父親、それにゴンサロと知り合い連絡をとっていた他のユーチューバーたちも同様に嘆願した。

ゼレンスキー政権、米国政府、西側諸国の政府が一致して牙を剥くと決めたら、その人の運命が決めることは火を見るより明らかだ。残念なことだが、できることはほとんどない。

ゴンサロ・リラ氏の件では、タッカー・カールソン、SNS 界の巨人とも言うべきイーロン・マスクのような人々が彼を擁護し、言論の自由を求め、民主主義の危機を訴えるため、前面に立って声を挙げたが、実際にどうすることもできなかった。

悲しむべきことに、ゴンサロ・リラ氏の件は全西側諸国の全ての人々にとって大変つらい警告と覚書だ。

—そうですね。彼は米国のジャーナリストで、現にウクライナを支援している国、米国の市民ですよ。なぜワシントンは彼を釈放する意志がなかったのでしょうか？

ワシントンが動けば彼は簡単に釈放されたのではないかと思います。

マイク：疑いの余地もないことだと思う。ワシントンにその意志があれば、もちろん糸を動かすことは可能だったはずだ。米国は何よりウクライナの資金提供者なのだから。

文字通り、公務員の給料も年金も、国の経費すべて米国が払っている。米国の国民みんな知っている。秘密でもなんでもなし。ゴンサロ・リラ氏の釈放のためには、アントニー・ブリンケンが電話を一本入れるか、彼の身柄を米国に返すための何らかの手順を示すだけで済んだはずだ。

実際に彼が何らかの罪を犯したのなら自分の国で裁判にかけられることになっただろう。

そういう件はいくらでもある。

私は法律の専門家ではないので計り知れないが、どんなケースであれ大使館にはやりようがあっただろう。

しかし、何もしないことを選んだ。そして、とても勇敢な男の死という結果になった。彼は危険は承知の上だったと言わなければならない。彼の性格や人間性に疑念を挟まない。私は死者を悪く言いたくない。ゴンサロ氏については人にはそれぞれ別の意見もあるだろう。

それが彼のスタイルであり彼の性格だ。ウクライナや SBU について、彼は全ての人とウマが合ったわけではない。それは確かで、理解できる。しかし、彼は意識し、原則を持って大胆に切り込んでいくことを選んだ。言論の自由を守り、それが民主主義だと彼は信じていた。彼が信じたことは正しかった。

そして、非常に悲しいことだが、最後にその代償を支払った。

—フリージャーナリストのマイクさんでした。ありがとう、マイク。

▽「実際に罪を犯したなら自国で裁判を受けたはず」

▽ 無実ゆえにウクライナで拷問死させられたのか...

▽ 恐ろしいパラドックス。

<https://twitter.com/i/status/1747457206373831132>



<https://mail.yahoo.co.jp/u/pc/f/message/ADQ8QGQAAK4tZbIZ2gmg2K2vNnw>